

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0771100179		
法人名	有限会社 タムラ		
事業所名	グループホーム はこべ		
所在地	福島県田村市常葉町常葉七日市場99番地		
自己評価作成日	平成21年7月1日	評価結果市町村受理日	平成21年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成21年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きな窓の前には、田園風景が、広がり目に入る緑色、町並の先には阿武隈の山々が連なる自然環境の素晴らしい中に、グループホーム はこべがある。利用者が、広大な敷地の中を自由に散歩したり、地域の方と一緒に手入れした野菜を収穫したりして、毎日のんびり穏やかに生活できるように支援している。年に1回、はこべ祭を開催し、地域の方々、ご家族、ボランティアの方々との交流を大切にしている。画一的でなく一人一人の生活を尊重し一人一人の思いに添った毎日を過ごしていただけるように、支援している。またここより6K先車で15分の場所に今年4月より、役員の一の持ち家、一戸建て離れ付きが、空き家の為、当事業の利用者に開放された。幸いに標高967mの鎌倉岳のふもと、大自然の中、山菜の時、梅干し作り、ホタル狩りなど里山生活を、楽しむことが可能である。朝利用者と出掛け食事を一緒に作り、里山遊びをし昼寝をし、夕方事業所に戻る。利用者は、目の輝きが違い里山を楽しんでいる。これからも回数を多く充実させて出掛けたいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地方ならではの自然環境に恵まれ、高い天井から自然の採光が一面に注ぎ、贅沢な一枚ガラス窓を通して田園風景が見通せる共有空間は印象的である。良好な環境の中で利用者は自由に快適に生活している。月例会議には運営者も必ず参加し管理者、職員とのコミュニケーションが十分図られ一体的な運営が行われている。また、地域医療に取り組む医療機関との連携も十分とられ、職員の取組みも意欲的であり、利用者の自立度向上に反映されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	棟内数か所に掲示し、また、ミーティングなどで話し合いを行い職員の意識づけ、共有に努めている。	事業所独自の理念である「最後まで共に歩む」「地域の皆さんと一緒に楽しくごく普通の生活を」を実践するために、会議、研修等を通じ理念の共有を深め、ケアに反映させるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	創設記念日の「はこべ祭り」では、利用者と一緒に近隣住民にお知らせを配布してまわった。老人会の踊りのボランティアや、幼稚園の運動会、発表会の応援、小学生の来訪など地域との親交を深めることが出来た。	利用者が地域の一員として暮らせるよう、管理者及び職員は地域のさまざまな団体との交流を深めている。町内会にはまだ入っていないので、入会し町内会を通じた地域交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での議題に取り上げたり、また、相談を受けた際などは、話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的で開催しており、活動状況の報告をし、評価、要望、助言を受けている。メンバーから意見を多く聞き出しサービス向上に活かしている。	定期的に行われ、双方向による意見交換や情報交換が行われている。外部評価の結果を報告し参加者の理解を得ながらサービス向上に活かしている。実施回数のうち行政関係者は過半数の回数を占めている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	市の担当者と細やかな連携を取り相談したり、指示を受けるようにしている。	市保険課は勿論のこと福祉課、市民課などとの連絡・相談を密にし、協力関係づくりに積極的に取り組んでいる。特に管理者が役所に出向き、事業所のケアサービスについての情報を十分伝え協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止のマニュアルがあり、外部研修への参加や内部研修を行っている。身体拘束をしない方法を考え実践している。	内部・外部の研修等を通じ身体拘束禁止事項を十分理解し拘束をしないケアづくりに積極的に取り組んでいる。平屋建てで敷地も広く自由に戸外に出ることが出来、玄関や居室には施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待について学び、常に虐待について注意を払っている。また入居者の変化なども敏感に感じ取れるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアカンファレンス、全体ミーティング等で制度について話し合いが必要があれば利用者家族に制度の理解と活用について説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や契約時に係わらず、面会時や電話等いつでも疑問の声には、十分な説明を行い納得してもらえるような体制になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族が苦情を言い易い関係作りに努めている。また、苦情、意見ポストを設置しており、細かな意見でも言えるような体制になっている。	誰でも苦情・意見を述べられるように玄関脇に苦情・意見ポストを設置している。また、運営推進会議等でも家族等が意見や要望等を発言できる場を設定し、運営に反映している。家族訪問も頻繁にあり要望等を聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングには、代表者が参加し、意見交換の場を持っている。管理者は、毎朝のミーティングや、普段からも職員の意見に耳を傾けてる。	月例会議には必ず代表者が参加し管理者及び職員との意見交換を行い一体的な管理運営が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と個人面談を行い、話し合いを持った。各自が向上できるような環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自に合った研修の参加や日々の業務の中で、全ての職員が技術や知識を身につけて行けるように、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム交流会に参加し情報交換できた。職場内での悩みを相談したり有意義な意見交換ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	きめ細やかな、アセスメントを行っている。本人とじっくり対話する事で、少しでも不安をなくせるよう信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも可能な限り話し合いを持ち、不安や要望などを、聞き出すようにしている。本人への思い意向など、家族としての思いを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを基に、本人に必要な支援を見極めている。必要に応じて他のサービス利用の検討もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から、野菜の作り方、調理の仕方等教えてもらいながら、一緒に作業を行う事も多い。また季節の行事などについても教わることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との面会、外出、外泊の機会を出来るだけ多く持っていただけるよう支援している。特別な日には、家族も参加して一緒に祝っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や商店へ外出されている。外出のコースも希望を取り入れるようにしている。家族の協力を得て外出、外泊も支援している。	収穫時には近くから野菜をいただいたり、事業所の行事参加にお誘いしたりし馴染みの関係を築いている。理美容師の訪問整髪もある。外出・外泊など自宅と事業所の連携も円滑に行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方、合わない方など、おられるが、常に見守り行い、職員が間に入る事で孤立する事のないように支援している。一時的なトラブルがあっても利用者同士で気遣う姿も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要があれば、相談に応じたり、できる事は支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング、アセスメントの際に本人、家族の意向を伺いケアプランに取り入れている。また日常的に、本人の希望や行きたい場所、やりたい事を毎日の会話の中から得るよう努めている。	利用者がその人らしく暮らせるため、生活歴はもとより日常の触れ合いの中から家族や本人の思いや意向を感じ取り、東京センター方式の様式に落とし込み、丁寧に把握し実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に聞き取りしている。生活歴を考慮したケアプランを作成している。また、常時会話の中に生活歴を把握出来る話題を取り入れたり、家族との会話の中からも聞き取れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録やチェック表などで状態を把握している。日々、注意して観察を行い、小さな変化や出来ることなどの発見に努め、ケアプランに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に、モニタリング、アセスメントを行い、話し合いを行っている。また変化に応じ、随時見直しを行っている。本人、家族の意向を十分に把握し反映させている。	状態像の把握が十分行われており、当初の介護計画に反映されている。ただ、援助内容に対する個別記録が十分でないため、個別記録を基に行われる介護計画の見直し、評価の実施状況が明白でなかった。	月例的に行われるケース会議の中で検討内容や課題等を抽出するためには、介護計画に基づく個別の実施記録が重要である。見直しや評価の際の根拠となるので、明確な記述を検討して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や申し送りノート、ケア実践チェック表などを職員間の情報共有に活かしている。ケアプランに基づく記録により介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車で10分程の所の役員の自宅を開放しており、ホームから、野菜作りや梅とりなど遊びに行った。またバーベキューなどを行い楽しまれた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々へ認知症の理解を働きかけ協力を得られている。美容院や商店街への外出や幼稚園や小学生との交流会など実践できた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携をとりながら受診、往診、などが適切に行われている。また、状態の変化があった際や緊急時などは、ドクター指示がスムーズに行われている。	事業所と協力医療機関、かかりつけ医との連携が十分行われている。定期的な往診もなされているため、利用者の状況も把握されており、緊急時の対応も円滑に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化や異常があれば相談し、速やかに対応している。異常の早期発見に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療との連携は出来ており情報交換や相談を密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族、かかりつけ医と常に連携し、話し合っている。3か月ごとに同意書を得て家族に説明を行っている。	看取り介護を実施しており、事業所が掲げる重度化や終末期対応指針に基づき、かかりつけ医と十分な連携をとり、職員間で対応方針を共有し、再度にわたり家族との同意を得、確認しながら実施をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを個人別に作成し全員が同じ対応を出来るようにしている。事故発生時のマニュアルもできている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携し、避難訓練を実施している。地域の協力が得られるよう、話し合いを行っている。食料、物品の備蓄もしている。	近くに消防署があるため連携をとり夜間想定避難訓練や消火訓練を定期的に行っている。地域の協力体制はまだ出来ていないが話し合いが行われている。備蓄も整備されている。	今後は避難訓練の回数を増やし、地域との協力体制を構築しながら取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライドを損ねないよう十分配慮している。職員の意識を保てるよう、常々、ミーティングなどで話し合っている。	契約書に記載されてある個人情報保護や守秘義務についての内容を職員は十分理解し実践している。利用者に対する支援も自尊心を損なわないよう留意し取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添いのケアにより、言葉以外の訴えなどにも注意して観察している。小さな事でも本人の希望を聞きながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、作業などは、興味が持てたら参加してもらっている。外出や散歩などの希望にも出来る限り付き添っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個別に、お化粧したり、髪をセットしたりの支援をしている。馴染みの美容院への外出も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	利用者の食べたい物を聞いてから献立が決まる事がある。調理の方法を、教えてもらったり、皮むき、味付けなど一緒に行っている。	事業所の畑で利用者が生産した野菜などを食材にし、役割の場を提供しながら調理している。BGMを流しゆったりとした食事環境を提供し、職員も一緒に支援をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取のチェックを行い注意している。個々に合わせた食器や食事形態での提供、介助方法など工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に合った支援を行っている。口腔内状態の観察も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイミングを見て、トイレの声かけを行い出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。	時間や状態を見ながら排泄誘導を行い、トイレで自立排泄するよう時間をかけて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し食品、水分、運動等で予防と対策をとっている。チェック表により速やかな対応を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望に合わせて入浴支援している。頑固な拒否が見られた方も、時間をかけさまざまなアプローチにより、入浴を希望されるようになった。	週3回程度が入浴日となっているが、利用者の希望をできるだけ取入れ、職員の時間に合わせることなく入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	長年の生活習慣を変える事無く、また個々にあわせたペースで休んでいただけるように支援している。休息の場所などもそれぞれで、状況に合わせた見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化があった場合や薬の変更時は特に注意して観察し、記録に残している。医療と連携を取りながら服薬の支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や仏壇への供え物、洗濯物たたみ、御膳拭きなど個々に合わせた役割を持って頂き、継続されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴などは、毎日声かけしている。車椅子の方でも、スーパーや美容院へ外出している。又、皆で、花見や海へ行ったり季節ごとの外出も行い、楽しんでいる。	日常的な散歩、買い物、美容院等の外出は多い。自宅に帰る方もおり、マイクロバスによる遠距離旅行も季節ごとに行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は、家族と話し合いその方にあった金額を所持されている。買い物への付き添いや支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使えるようになっている。家族にも働きかけ電話や手紙のやり取りの協力を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎に飾りつけを変え季節を感じてもらおうようにしている。大きな窓があるソファコーナーより山や田んぼが眺められゆったりとした季節感や天候の変化を感じとる事が出来る。	居間の大きな1枚ガラス窓から四季折々に咲く草花や四季の織りなす風景を眺めることができる。 また、居間の飾りつけは家庭的であり、静かに流れる音楽とマッチし居心地のよい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いホールや、和室を有しており、それぞれに、思い思いの場所で寛いでいる。冬は、こたつで昼寝したり、お茶を飲んだりされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	馴染みの物を持ち込んだり思い出の品々を置いたりされ、くつろげるようにしている。本人に合わせ、畳部屋にされてる方もいる。	居室の中にある手鏡、人形、写真立て等の小間物は家庭的な居心地のよい居室となっている。 管理者・職員及び家族の配慮が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場には、わかりやすい目印をつけている。時計やカレンダーも見やすい物を使用している。		

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム はこべ

記入担当者名 熊田 裕子

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。